

# 令和3年度 小学部研究について（中間まとめ）

## I 研究テーマ

### 「児童生徒の自立的・主体的な生活につながる授業実践の取組」 ～自立活動の視点を踏まえた授業実践と評価・改善～

## II 研究テーマ設定の理由

### 1 学校教育目標・学部教育目標から

本校の学校教育目標は「児童生徒一人ひとりが個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」ことである。この目標を目指して、小学部では学部教育目標並びに経営方針を次のように定めている。

【表1】 本校小学部の学部教育目標

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 身の回りのことを自分でできる。</li><li>(2) 進んでいろいろな活動に取り組むことができる。</li><li>(3) 明るく元気に友達と遊ぶことができる。</li></ul> |
|---|

【表2】 本校小学部の学部経営方針

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 基本的な生活習慣を身に付けるため、身近自立や体づくりに継続的に取り組む。</li><li>(2) 自分の興味・関心に基づいた学習を重視し、活動への意欲を高める。</li><li>(3) 他学級との学習、学校間交流や交流籍を活用した交流及び共同学習などの活動をとおして豊かな心や社会性を育てる。</li><li>(4) 個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に努める。</li><li>(5) 見通しをもちやすく、より豊かな学習ができるための教育課程を検討する。</li><li>(6) 家庭・学園や関係機関との連携を密にし、支援の一貫性と充実を図る。</li><li>(7) 卒業後の生活を意識した、よりよい支援を目指して他学部との連携を図る。</li></ul> |
|---|

これらを学部経営の基盤としながら日々の教育活動に取り組んでいる。国語、算数などの教科学習に加え、「遊びの指導」や「生活単元学習」といった各教科等を合わせた指導を中心に、教育課程を編成している。

### 2 これまでの学部研究から（前次研究について）

#### (1) 成果

##### ①「授業改善の視点」を活用した授業づくりの取り組み

全体研究で提案された「授業改善の視点」をもとに、小学部としてどのような取組ができるかを検討した。具体的には、低学団は「遊びの指導」、高学団は「生活単元学習」において、児童の主体的に取り組む姿を引き出すために、どのような指導・支援をしていくかを教職員全

員で話し合い、意見を集約した。その結果、小学部として大切にしているキーワードを整理でき、これらは授業実践の振り返りでも役立てることができた。

## ②学部内での実践報告と協議

各学団もしくは学級で授業実践に取り組み、学部研究会で報告した。職員アンケートでは、「授業者の疑問点や困っている点について話し合うことで、課題を解決することができた。」等の意見が多く聞かれ、授業づくりの視点を深める有意義な機会とすることができた。

## ③「授業づくりシート」を活用した情報共有とPDCAサイクルによる授業改善

二年間をかけて改良してきた授業づくりシートを実際に活用しながら授業実践を行った。職員からは「徐々にシートの書き方に慣れて、授業づくりに役立てることができた。」等、おおむね肯定的な意見が聞かれた。また、児童の取組の様子を客観的に把握するためにも有効であった。

## (2) 課題

### ①「授業づくりシート」の様式のさらなる改善

「略案と授業記録シートを一体化してはどうか」「3観点での目標の記入の仕方が分かりにくい」等の意見が出されるなど、シートの形式については改善の余地があると言える。

### ②各教科等を合わせた指導における、教科との関連を意識した授業づくり

「遊びの指導」や「生活単元学習」などの各教科等を合わせた指導において、教科との関連に対する意識は十分ではない。教科との関連への意識を高め、年間を通してより系統的な指導を行えるようにしていく必要がある。

## 3 児童の実態および学部職員のニーズから

小学部には、34名の児童が在籍している。実態や発達段階は個々に異なり、一人ひとりの教育的ニーズは多岐にわたっている。

今年度から取り組む新研究テーマを設定するにあたり、まずは児童の実態および職員のニーズについて協議し、学部全体で共有する機会を設けた。その結果を以下に示す。

### (1) 児童の実態の例

- ①気持ちが不安定なとき、適切な方法で周囲とかがかわることが難しい。
- ②つばはき、飛び出し等の行動がある。
- ③指示がないとやることがない。興味関心の幅がせまい。
- ④片付けなどの時間がかかる。
- ⑤イライラしている様子だが、思いをうまく表出できない。

### (2) 職員の声から

- ①「自立活動」は何をすればいいのかわからない。具体的な活動内容や教材などについて理解を深めたい。
- ②訪問学級に在籍する重度障がいの児童の反応や感情の見取りがはたして正しいのか。
- ③通常学級での「自立活動」はどうあるべきか。
- ④教科書を用いた教科指導をどう進めていけばよいか。
- ⑤主体的な活動にもっていく方法が分からず悩んでいる。

⑥教科指導において、プリント学習が多くなってしまふ。

⑦学級の児童の実態差が大きいため、教材選びが難しい。

これらの意見を集約した結果、「自立活動の指導」と「教科指導」の充実を目指すことで、児童の教育的ニーズと職員のニーズの両方にせまることができるのではないかと考えた。そこで、学部研究のテーマを「自立活動の視点を踏まえた授業実践と評価・改善」として、授業づくりを追究していきたいと考える。

授業実践においては、個別の指導計画を活用して一人ひとりの自立活動の目標にせまりながら、教科指導の充実を図りたい。それにより、確かな知識・技能を身に付けながら、生き生きと主体的に学習に取り組む姿を引き出すことができると考える。

### Ⅲ 研究内容

- 1 学部研究の基本構想と共通理解
- 2 国語科および自立活動の年間指導計画の作成と指導内容等の検討
- 3 自立活動の目標・内容を関連付けた授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組  
(通常学級は国語、重複学級は自立活動コミュニケーションに焦点を当てた実践)
- 4 授業づくりシートの活用とさらなる改善
- 5 研究のまとめ

### Ⅳ 研究計画 【表3】

月	期日、内容	主な内容
4	15日 学部研①	・令和3年度前沢明峰支援学校全体研究計画(案)の概要について周知 ・学部研究の方向性について協議
5	12日 学部研② 28日 全体研究会①	・学部研究のテーマおよび内容、計画等について協議 ・全体研究会資料の検討 ・学部研究について提案・協議
6	17日 学部研③	・自立活動に関する学習会(講師:支援センター部) ・事例検討
7	5日 学部研④	・授業実践 ・事例をもとにしたVTR検討会 (2・3年1組)(6年1組)
8	19日 学部研⑤	・授業実践 ・事例をもとにしたVTR検討会 (4年2組)(6年3組)
9	13~17日 高等部授業参観週間 16日 学部研⑥	・高等部の授業公開参観 ・授業実践 ・事例をもとにしたVTR検討会

	22日 授業研究会①（高）	（2・3年2組）（4年1組） ・研究会参加
10	6日 学部研⑦ 15日 授業研究会②（中）	・授業実践 ・事例をもとにしたVTR検討会 （1年1組）（5年2組）（6年2組） ・中学部の授業公開参観 ・研究会参加
11	18日 学部研⑧	・授業実践 ・事例をもとにしたVTR検討会 （1年2組）（5年1組） ・（小）授業研究会指導案の検討等（訪問学級2年）
12	9日 学部研⑨ 10日 授業研究会③（小） 24日 全体研究会②	・提案授業の参加体制等の確認 ・提案授業（訪問学級2年） ・（小）授業研究会の反省
1	20日 学部研⑩	・学部研究のまとめ（資料の内容検討） ・学部研究の反省 ・全体研究会を受け、必要に応じて資料の修正
2	17日 学部研⑪	・全体研究資料の確認 ・2年次の研究内容についての意見交換、方向性の確認

## V 研究の推進にあたって

学部研究の推進にあたっては、全体研究のVIで提示されている以下の点について共通理解を進めながら取り組んでいくこととする。（全体研究資料参照）

- 1 学校教育目標等から
- 2 前次研究の課題から
- 3 全体研究会の助言等から

## VI 研究の実際

### 1 国語および自立活動の年間指導計画の作成・指導内容の検討

年度当初に年間指導計画を作成し、系統的に学習を積み重ねることができるよう指導内容や実施時期を検討した。重複学級は「自立活動」、通常学級の自立活動は「教育活動全体の中で指導する」とされているため、今年度については「国語科」の年間指導計画に自立活動の視点を踏まえて見直しを図った。【表4】作成にあたっては、個別の指導計画を参照し、一人ひとりの自立活動の目標にせまることができるよう留意して単元・題材を設定することとした。

【表4】年間指導計画（通常学級6年 国語科）

令和3年度 小学部 6年1組 国語  
目標

- ・ 日常生活に必要な国語の知識・技能を身につけるとともに、言語を使って考えたり判断しようとする態度を養う。
- ・ 日常生活における人との関わりの中で、必要な情報を伝え合う力を身につけるとともに、思いや考えを表現したり受け止めたりする態度を養う。

計画			
月	単元名	指導内容	教科等の指導：主な学習活動 教科等を合わせた指導：主な学習内容（教科との関連）
4	インタビューをしよう	・聞く・話す	・友達や教師に簡単な質問をしたり、答えたりする。
5	くわしく話そう・書こう①	・振り返り ・絵日記	・楽しかった遊足についての簡単な感想を、要点をつかんで話す。 ・体験したことの簡単な絵日記を、助詞を正しく使って書く。
6	電話で話そう	・簡単な受け答え ・丁寧な言葉遣い	・用件を電話で聞いたり、話したりする。 ・話をよく聞いて、伝言する。 ・丁寧な言葉で話す。
7	くわしく話そう・書こう②	・振り返り ・絵日記まとめ	・校外学習についての感想を、要点をつかんで話す。 ・体験したことの簡単な絵日記を、助詞を正しく使って書く。
8	物語を読もう	・物語を読む ・おおまかな内容理解	・物語を読んで、おおまかな内容を理解する。 ・物語に対する自分の感想を持ち、表現する。 ・登場人物の心情を捉える。
9	劇をしよう	・物語を読む ・おおまかな内容理解 ・登場人物の心情	・物語を読んで、おおまかな内容を理解する。 ・劇を演習して、声の大きさやイントネーションに気を付けて演じる。
10	読明文を読もう①	・読明文を読む ・おおまかな内容理解	・単仮名や簡単な漢字を読む。 ・話を聞いて、おおまかな内容を理解する。 ・読明文を聞いて、クイズを出したり答えたりする。
11	標語を作ろう	・標語を考える	・ロールプレイを見て、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりする。 ・言葉を組み合わせ、標語がよい文章（標語）を作る。
12	読明文を読もう②	・読明文を読む ・おおまかな内容理解 ・新たな語彙や表現	・単仮名や簡単な漢字を読む。 ・話を聞いて、おおまかな内容を理解する。 ・読明文を聞いて、クイズを出したり答えたりする。
1	物語を読もう②	・物語を読む ・おおまかな内容理解	・物語を読んで、おおまかな内容を理解する。 ・心情を要す語彙を獲得する。 ・ロールプレイを通して、登場人物の心情を捉える。
2	くわしく話そう・書こう③	・振り返り ・絵日記まとめ	・校外学習についての感想を、要点をつかんで話す。 ・体験したことの簡単な絵日記を、様々な形容詞・形容動詞・副詞を使って書く。
3	読明文を読もう③	・読明文を読む ・おおまかな内容理解	・単仮名や片仮名、簡単な漢字を読む。 ・写真やイラストを見て、それについて知っていることを話す。 ・クイズ大会をする。
4	くわしく話そう・書こう④	・振り返り ・絵日記まとめ	・校外学習についての感想を、要点をつかんで話す。 ・体験したことの簡単な絵日記を、様々な形容詞・形容動詞・副詞を使って書く。
5	標語を作ろう②	・標語について知る ・読書推進標語の作成	・標語についてのイメージを持つ。 ・教師のロールプレイを見て、読書に関する単語や文を話す。 ・単語や文を組み合わせて標語を作る。
6	片仮名に頼もう	・片仮名の読み書き ・大まかな内容理解	・片仮名を頼んだり、いくつかの片仮名を書いたりする。 ・話を聞いて、文のおおまかな内容を理解する。
7	書き初め	・筆や墨の扱い方	・好きなことばや新年の抱負を毛筆で書く。
8	くわしく話そう・書こう⑤	・振り返り ・絵日記まとめ	・習字練習についての感想を、要点をつかんで話す。 ・体験したことの簡単な絵日記を、様々な形容詞・形容動詞・副詞を使って書く。
9	まとめ新聞を作ろう	・単仮名、漢字 ・順序よく文を書く	・一年間の振り返り新聞を書く。 ・漢字を正しく使って文を書く。
10	発表会をしよう	・声の大きさ ・まとめ新聞を読む	・適切な声の大きさで伝える。 ・友達に質問したり、答えたりする。

行事と関連づけて実施時期を設定

同様の学習活動を①②と継続。ねらいを明確にし、スモールステップで発展させる。

## 2 自立活動の目標・内容を関連付けた授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組

### (1) 授業改善の取組

今年度は通常学級では、自立活動の視点を踏まえた国語科の授業実践、重複学級ではコミュニケーションに焦点をあてた自立活動の授業実践に取り組んだ。毎月の学部研究会では、各学級の取組についてグループ協議を行い、活動内容や手立て等について活発な意見交換を行うことで授業改善に生かしてきた。年間を通してすべての学級が一実践を発表し協議を行った。PDCA サイクルによる授業改善の手順を以下に示す。

#### ① 実践発表

授業者より、VTR 視聴を含む 10 分間の発表を行う。単元計画シートをもとに対象児童の自立活動および国語科の目標を確認し、共通理解する。

単元計画シート（小学部） 【4年1組】

単元名	なまえなあんだ	指導者	指導者 A
自立活動の目標	B ・発音を明瞭にするため、舌の運動に取り組む。 C ・動かしたり止めたりのメリハリをつけて舌の運動をする。		
単元の目標	知識・技能	身近なものの名称が分かり、話したり、読んだりすることができる。	
	思考力・判断力・表現力	身近なものの名称を文字カードで作成することができる。	
	学びに向かう力、人間性等	友達に教えたり教わったりしながら進んで学習に取り組む。	
関する教科・領域	主な指導内容		
国語	1段階 ア（イ）言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。		
	2段階 ア（イ）日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。		
自立活動	心理的な安定 （3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 コミュニケーション（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 （2）言語の受容と表出に関すること。		
単元計画（日時・次）	活動名	時数	主な活動内容
1次	なまえなあんだ（2～3文字の単語）	通年	①イラストの名称を答える。 ②その名称を文字カードで作成する。 ③一文字ずつ文字カードを指さしながら読む。 ④みんなで確認する。
2次	なまえなあんだ（濁音、半濁音を含む単語）		
3次	なまえなあんだ（長音を含む単語）		
単元の評価		その根拠	改善策
知・技			
思・判・表			
主体性			

【図1】4年通常学級 単元計画シート

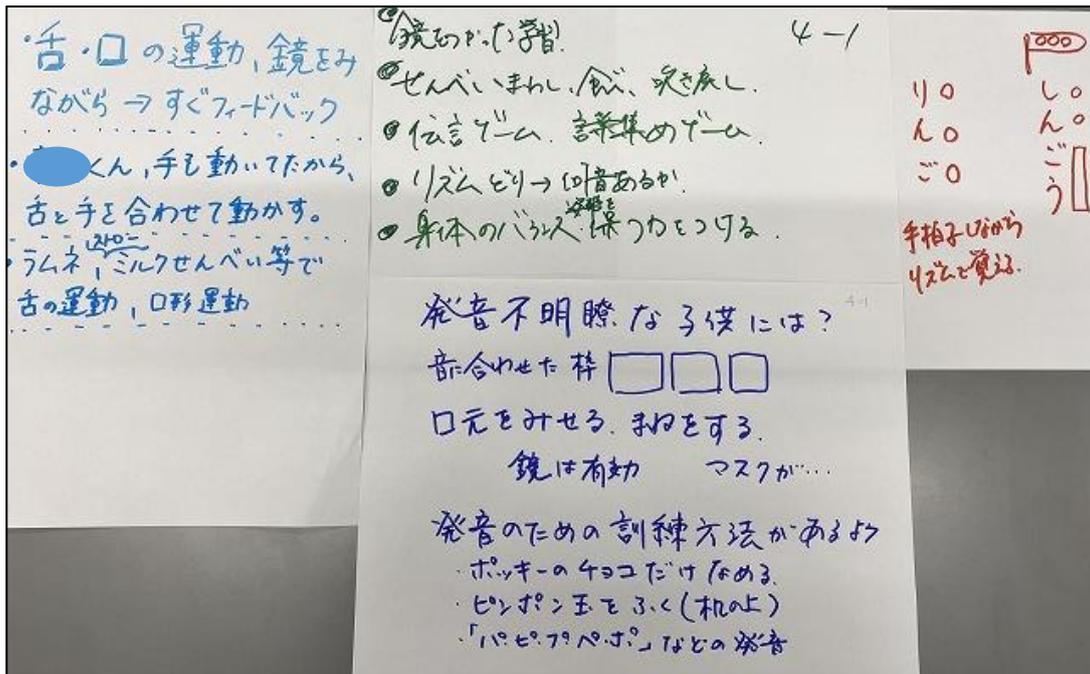
②グループ協議

4～5名程度の少人数グループになり、授業者と実践研究部員で設定した協議の柱について、15分間話し合いまとめる。

例) 協議の柱：発音を明瞭にするための支援のあり方、語彙を増やす有効な手立て

【表5】グループ協議で出された主な意見

児童の姿 (取り組みの様子・課題)	◎有効だった支援 ◇次時への改善点
発音が不明瞭	◎舌と口の運動 ◇手も合わせて動かすと発音しやすいのではないか ◇口の運動をさらに発展させてはどうか。 例) せんべい回し食べ、吹き戻し等 ◇鏡を見ながら取り組み、即時にフィードバックしてはどうか
語彙が少ない ものの名称が不確実	◎ゲーム感覚で取り組める学習課題 ◇音の数に応じて枠（せみ→□□、りんご→□□□）を設ける ◇リズム取りあそび（音がいくつあるか）をしてはどうか ◇手拍子でリズムをたたいてみてはどうか



【図2】各グループによる協議メモ

### ③全体での共通理解

協議で挙げられた支援の在り方および次時への改善点を発表し、参加者全員で共通理解を図る。それを踏まえて今後の授業の展開について授業者が述べる。授業者は単元がすべて終了した後、単元計画シートの評価欄に記入して自分自身の振り返りに生かす。

### (2) 小学部提案の授業研究会の取組

本校では例年各学部1回の提案授業による授業研究会を実施している。小学部では今年度からの学部研究テーマに基づき、訪問学級の自立活動を提案授業として設定した。

なお、本単元は訪問学級と同学年の児童とのTeams機能を活用した交流学习として設定しており、児童の様子については撮影したビデオの視聴による提案授業という形式で行った。

【表6】第3回授業研究会提案授業の概要（小学部訪問学級と2・3年生）

単元名	なかよし大作戦！～リモートで会ってみよう～	
対象	訪問学級2年1組	1名
	通常学級2・3年1組	2名
	重複学級2・3年2組	2名
授業者	T1～T4	4名

提案授業では資料として、以下の①～③を配付した。

- ① 学習指導略案
- ② 単元計画シート【図3】
- ③ 令和3年度小学部訪問学級について（在籍児童の実態・教育課程等）

単元計画シート（小学部） 【訪問、2・3年】

単元名	なかよし大作戦！～リモートであってみよう～		指導者	T1～ T4
自立活動の目標	A ・友達や教師の声を聞いて、反応する。 B ・自分から言葉で気持ちを伝えることができる。 C ・「です」「ます」を使った言葉遣いに慣れる。 D ・絵カードを使って気持ちや要求を伝える経験をする。 E ・「ください」「おねがいします」などのジェスチャーを交えながら友達や教師に気持ちを伝えることができる。			
単元の目標	知識・技能	画面に映る姿が友達だとわかる。		
	思考力・判断力・表現力	決められたことを話したり、話し掛けに応じて答えたりすることができる。		
	学びに向かう力、人間性等	画面に注目したり、自ら画面に近づいたりする。		
関する教科・領域	主な指導内容			
自立活動	人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (4) 集団への参加の基礎に関する事 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事			
国語	1段階 A 聞くこと・話すこと イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。			
単元計画（日時・次）	活動名	時数	主な活動内容	
9月1日（水）	夏休みの思い出を伝えよう	1	夏休みの絵日記を発表する、聞く	
10月13日（水）	校外学習の思い出を伝えよう	1	校外学習の思い出を発表する、聞く	
11月10日（水）	学習発表会おつかれさま会をしよう	1	学習発表会で頑張ったことを発表する、聞く	
単元の評価		その根拠（〇は訪問児童）		改善策
知・技	画面に映る姿が友達だとわかった。	〇Aさんは、特定の児童が映ると笑っていた。 〇Aさんは、手を上げたり下げたりしていた。 ・画面を見て「Aちゃんだ」と言ったり、画面に近づいたりした。 ・リモート1回目はAさんが映ってもわからなかった児童が、回数を重ねるごとにわかってきた。 ・Aさんと勉強する時間が増え、覚えた。		

【図3】単元計画シート

① 授業研究会のグループ協議において作成したワークシートの記述から

授業研究会はワークショップ形式で行い、46名が参加した。参加者は5つのグループに分かれて授業の成果と課題、改善策について意見交換を行い、ワークシートを作成した。

各グループで作成したワークシートの成果と課題を受けて行った授業改善の取組を【表7】にまとめる。

【表7】小学部訪問学級における授業改善の取組

授業研究会で作成したワークシートの記述から得られた課題	課題解決のための手立て	手立ての評価 成果◎ 課題△
○教室の動画は動きが早く感じる。アップと引きのバランスが難しい。 ○リモート学習の場合、聞き取りにくい部分がある。	・よりよく映像や音声を届けるために、iPadはタブレット固定器に設置し、いつも以上にゆっくり動いたり話したりする。	◎iPadが固定され、ゆっくり動かすことで、手振れが少なく、見やすい映像になった。また、お互いに顔が見やすいように、臨機応変に調整し合うことができた。 ◎発表時にはゆっくり話し、相手の発表時には静かに聞いたり見たりすることで、スムーズなやりとりができた。 ◎ハートや拍手のエモーションマークを送られることで、相手の反応を見ることができた。

○発表用の紙がくねくねして見づらさがある。	・発表用の紙は見やすいようにホワイトボードなどに貼る。	◎発表用の紙は、発表後にホワイトボードに貼り付けて撮影したり、初めからホワイトボードに貼ったりすることで見やすくなった。 ◎訪問は発表用の紙が画面に映っているか確認してから発表をスタートすることで、見づらさを解消できた。
○児童が反応していることをどう伝えたらいいか。	・学校の児童が A さん（訪問学級在籍児童）を理解するためのヒント（「手が上がったよ」「口が動いているね」など）を教師が伝えておく。	◎教師が A さんの反応を具体的に言語化して伝えることで、テレビ画面に映っている A さんの動きに対して指をさしたり、手を振ったりすることができた。 △教師が言語化して伝えても A さんの動きや反応に気付くことができない児童もいた。
○質問の意味や2つの選択肢の違いを理解しているか。	・児童の反応の見取りを良くしていくこと。 ・教材の提示や活動（動き）も画面タッチや目線、音などで反応するものが良い。	◎リモートが始まる前に A さん・母親・教師で質問内容を確認、説明する時間を設定したので、理解が進んだ。 ◎繰り返し、2つの選択肢から選ぶ活動をしたことによって、スムーズに選ぶことができるようになった。 ◎リモート後、複数の教師で A さんの反応を話し合うようにした。

### 3 授業づくりシート等の活用と改善

授業実践を軸とした研究を進めるにあたり、単元計画シートの改善を行った。これまで活用してきた単元計画シートの様式は「関わる教科」という欄があるものの、教科名を記載するにとどまり、具体的な関連性は見えづらいものだった。実際、前次研究でも「教科との関連性が意識しにくい」という点が課題として挙げられている。また、今年度から研究テーマとして掲げている自立活動の指導との関連についても、特別記載する欄は設けていなかった。これらを踏まえた上で、より教科としてのねらいと自立活動のねらいを意識できるよう検討し、次のような様式に変更した。

単元名		指導者	
単元の目標	【知・技】	関わる教科	
	【思・判・表】		
	【学び・人間性】		
単元計画		時数	指導内容
単元の評価	その根拠		改善策

【図4】単元計画シート（旧 ver.）

単元計画シート（小学部） 【 年 組】

単元名		指導者	
自立活動の目標	※個別の指導計画から転記		
単元の目標	知識・技能		
	思考力・判断力・表現力		
	学びに向かう力、人間性等		
関する教科・領域	主な指導内容		
例：国語	3段階 ア（エ）言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと（カ）正しい姿勢で音読すること		
単元計画（日時・次）	活動名	時数	主な活動内容
単元の評価		その根拠	改善策
知・技			
思・判・表			
主体性			

【図5】単元計画シート（新 ver.）

このように、対象児童の自立活動の目標を記入する欄を新設したほか、主な指導内容の記入例を記載することで、授業者が書きやすいよう工夫した。

#### 4 研究のまとめ

自立活動の視点を踏まえ、児童が主体的に学習に取り組む姿を目指して取り組んできた今年度の小学部研究について、1年次の成果と2年次に向けた課題を以下にまとめる。

##### (1) 成果

###### ①国語科および自立活動の年間指導計画の作成と指導内容の吟味

年度当初に年間指導計画を作成することで、年間を通して系統的に学習を積み重ねることができた。とくに、個別の指導計画と連動させて、教科指導の中でどのように自立活動のねらいにせまることができるか、という視点で指導内容を吟味することができた点が成果と言える。

###### ②授業づくりシートの活用について

昨年度までの研究で活用してきた授業づくりシートをさらに改善した。なかでも、「単元計画シート」については、今年度から研究の中心に据えて取り組んでいる「自立活動」の目標を意識できるよう新たな欄を設けた。今年度は全学級が実践に取り組んだため、職員の半数以上がこのシートの作成に関わることができた。学部職員アンケートでは、シートの様式について「使いやすかった」と答える人の割合が9割を超えたほか、「自立活動の目標を達成するために単元をどう組み立てたかが分かりやすい」などの意見があげられた。

###### ③授業改善の取組について

すべての学級が一実践を行い、学部研究会の中で実践を発表する機会を設定することができた。今年度からは、VTR 検討という形式をとったことで、実際に学習に取り組む児童の姿を職員全体で確認し、その姿をもとにより具体的な授業改善のアイデアを出し合うことができた。職員アンケートでは「他学級の児童の実態や学習の様子を例年以上に知ることができた」「小グループでの協議は意見を出しやすかった」等の肯定的な意見が数多く寄せられた。このことから、単元計画シートと VTR を併用した協議の在り方は授業改善の方法として適していたと言える。

###### ④訪問学級の取組の周知

本校の訪問学級に在籍しているのは小学部2名のみである。普段は担任が児童の自宅を訪れて学習指導を行っているため、同じ小学部職員であっても訪問学級の実際の様子を見る機会はこれまでほとんどなかった。今回、リモート形式での学習の様子を授業研究会で全職員に見てもらうことで、訪問教育の実際と児童の様子を周知するよい機会とすることができた。授業研究会アンケートからは、「訪問学級の実際を見るのは初めてだった」という感想が多く聞かれるとともに、「五感を活用した児童とのかかわり方が参考になった」等の意見が多数寄せられ、訪問学級の経験がない職員にとってもかかわりのヒントを得る機会となった。

## (2) 課題

### ①各教科・領域と自立活動の関連について

今年度は「国語科」に焦点を当てた取組を通して、自立活動と教科とのつながりを考えてきた。国語科以外の教科・領域については今後検討が必要である。「教科や領域を指定しないで自立活動の視点を踏まえた授業実践をしてはどうか」という職員アンケートの記述も見られることから、次年度以降の研究の進め方も含め、国語以外の教科・領域と自立活動の関連について検討していく必要がある。

### ②授業づくりシートの様式について

単元計画シートの様式については「シンプルで良い」「負担なく書くことができた」等、おおむね肯定的な意見が多かった。一方で課題点もいくつか挙げられた。

- ・単元計画シートと指導案を両方書くのは大変だった。中学部のように同じシートに盛り込むなど、簡単に書き込める形式がよい。
- ・単元目標と評価はリンクしていて書きやすいが、教科の指導内容と単元の活動内容の関連付けが難しい。活動内容に要素として取り入れられるような様式にしてはどうか。

これらの課題を踏まえ、他学部の様式も参考にしながらより使いやすいよう改善していきたい。

### ③授業研究会の指導助言から

授業研究会において、岩手大学大学院教育学研究科准教授の佐々木全先生から貴重なご助言をいただいた。助言の内容をおおまかに以下にまとめ、次年度へ向けた課題とする。

#### ○リモート授業における工夫

双方向のコミュニケーションを実現できるようにする。教員がテクノロジーを使いこなすことは大切だが、あくまでも手段である。何を目標に実施するのかを明確にすること。

#### ○「生活による生活のための教育」という視点

「生活」とは単元のテーマである。それに即して自立活動の内容を選定していく。その際、「生活」と切り離すことのないように留意する。

#### ○必要性和必然性

取組内容を明確化すること、目標・手立て・評価を明確にすることが大切。取り組み内容を明確化し、目標・手立て・評価を明確化すること。

#### 【参考・引用文献】

- (1) 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領, 文部科学省, 2017
- (2) 特別支援学校 自立活動
- (3) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部), 文部科学省, 2018
- (4) 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部), 文部科学省, 2018
- (5) 特別支援教育の実践情報 2021年10・11月号, 明治図書, 2021
- (6) 学習指導要領Q&A特別支援教育, 東洋館出版社, 2020